

環境省からの話題提供

(2)本州でのトキの定着に向けて

環境省自然環境局
野生生物課希少種保全推進室

1. 本州等における放鳥方針等

(1) 本州等におけるトキの野生復帰に向けた考え方及び 確認事項について

https://www.env.go.jp/page_00239.html

- ・「本州等におけるトキの野生復帰に向けた考え方及び確認事項について」
- ・「確認シート」

昨年度の本ネットワーク協議会にて案を提示。
→石川県及び能登9市町の取組内容を「確認シート」に記載、2025年2月14日のトキ
野生復帰検討会にて提示し、有識者の意見を踏まえた上で環境省が評価。
「令和8年度上半期に能登地域でトキの放鳥を行う」ことを決定。

5-2. 放鳥に係る体制に関する確認事項			
(1) 放鳥の実施に係る体制（事前調整、技術者の配置、当日の現地対応等）	☒	早ければ令和8年度となる放鳥を見据えた作業スケジュールを作成し、関係者との調整を進めているほか、令和6年9月に佐渡で実施された放鳥作業において、環境省とともにいしかわ動物園の職員も一部作業に従事するなど、放鳥作業の習得に努めている。今後も、いしかわ動物園と必要な調整を進めるとともに、想定される課題について関係者と協議を進めていく。	トキの野生復帰に關与する地域の多様な関係者・関係機関が、先行地域である新潟県・佐渡市とも連携調整しながら、適切な放鳥と放鳥後の確実な定着のために必要な知識や技術の習得に努めている。また、計画を確定し、専門のチームを形成してモニタリングすることとしている。
(2) 放鳥後のモニタリング体制（生き残確認、繁殖確認観察等）	☒	モニタリング計画に記載のとおり、トキの習得状況を把握するための入カフォームを作成し周知を図る。定着後は自然体、大学、鳥獣保護団体等を中心としたモニタリングチームなどにより繁殖状況等のモニタリングを実施する等を計画している。	以上のことから、緊急時対応も含めた必要な体制が構築されつつあると認められる。
(3) トキの繁殖・死亡等の緊急時の対応体制	☒	本県で飼育している既存の「鹿角鳥繁殖体制」の連絡・治療体制をベースに協議関係会とも連携しながら、さらなる周知を図ることとしている。	
環境省による総合的判断		各事項の状況を総合的に考慮すれば、石川県能登半島にはトキが野生復帰するに足るだけの自然的・社会的環境と地域体制が、現在進行形で着実に整備されてきていると認められることから、一定の準備期間を設けた後の令和8年度上半期中を目処に当該地域にてトキの放鳥を行い、野生復帰事業を展開していくことが妥当と判断される。	

1. 本州等における放鳥方針等

(2) 本州等におけるトキの放鳥の方針

- (概要)
- ・放鳥は基本的に放鳥に取り組む自治体が主体となって実施。
 - ・トキの放鳥は年間で最大2回、1回あたり最大20羽。
 - ・放鳥は6月上旬頃あるいは9月中旬頃とし、初回放鳥は6月を基本とする。
 - ・定着を促すために放鳥は複数年継続する。
 - ・放鳥は原則仮設ケージからのソフトリリースとし、ハードリリースを行う場合は併用。

等



仮設ケージからのソフトリリース(佐渡での様子)



ハードリリースの様子

2

1. 本州等における放鳥方針等

(3) 本州等に放鳥したトキのモニタリング方針

- (概要)
- ・本州でのトキの放鳥後は当面の間、モニタリングの実施により放鳥に取り組む自治体及びその周辺でのトキの状況把握に努める。

【以下の各ステージでのモニタリング方針を記載】

- ・**放鳥前**: モニタリング体制を構築することが望ましく、周辺自治体にも協力を依頼する。
- ・**放鳥直後～定着確認まで**: 環境省でGPS機器を装着して分布状況を把握(2年目まで)。
取組自治体は放鳥後2年後(目途)までにモニタリング体制を整えておく。

トキの目撃情報収集サイト等の構築と周知。

繁殖開始後が繁殖状況の把握や足環装着に努める。 等

- ・**定着後**: 「ねぐら出一斉カウント調査」の実施に努める。 等
- ・**フィードバック**: モニタリングの結果等を次回の放鳥に生かす



3

2. トキに装着する追跡機器(GPS)について

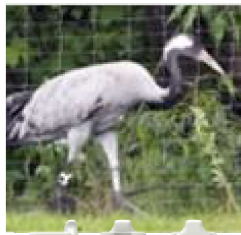
(1) 機器・装着法の検討

- ・本州での放鳥では、トキが広域分散する可能性も高いことから、放鳥開始から2年間を目途に追跡機器を装着して分布を把握。
- ・有識者ヒアリングにて追跡機器について検討(5月)。
(尾崎委員、永田委員、自然研 中山氏、山階鳥類研究所 澤氏)

- ①位置情報の正確性
- ②データ取得の確実性
- ③追跡の持続性
- ④動物福祉

の4つの観点から、放鳥トキの追跡に適した機種や装着法を検討。

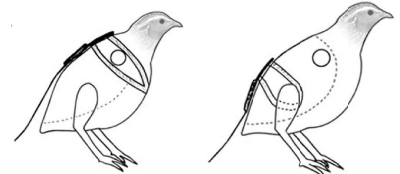
【足環法】



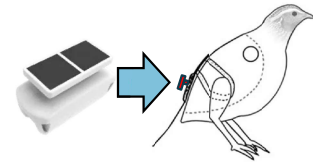
<https://interrex-tracking.com/leg-ring/>

【ハーネス法】

ウイングループ (機器を背中に固定：左図)
レッグループ (機器を腰に固定)



Buck et al. (2021) doi.org/10.1186/s40317-021-00257-9



サイズ：52×25×31mm 標準18.8g

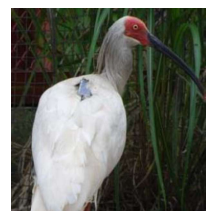
2. トキに装着する追跡機器(GPS)について

(2) 装着試験と今後の予定

⇒検討の結果、機器はソーラー給電式を使用。

装着法は、ハーネス法のウイングループまたは足環法が候補に。

- ・過去、ハーネス法についてはトキに使用実績あり。足環法は実績なし。
9月下旬～10月下旬に、飼育個体計8羽に足環法で試験装着を実施。
- ・今後、試験装着の結果を踏まえ、上記の2方式からいずれかに決定。
- ・データ測位頻度等を設定後、順化訓練開始時に装着。



ハーネス法
装着例

【機器の仕様】

- ・トキの分布状況をPCやスマートフォンなどで閲覧、設定変更可能。
ただし、データ送信は1日1回であり、環境(天候等)に左右されるため、リアルタイムでの把握は難しい。
- ・GPS情報を活用しつつ、人によるモニタリングも必要。



足環型追跡機器

3. 今後のスケジュール

【～令和8年5月頃 能登地域での放鳥に向けた各種準備】

- ・放鳥候補個体の決定、機材準備(令和7年11月～令和8年3月頃)
- ・放鳥実施に必要な体制、調整、参加者や役割分担調整等(石川県と協力して実施)
- ・関係機関への調整、放鳥や情報提供に関する普及啓発資料作成、配布

【令和8年2月 トキ野生復帰検討会の開催】

- 主な検討事項
- ・次期「トキ野生復帰ロードマップ2030」 ※本州でのトキの放鳥や今後の定着目標も含める予定
 - ・能登での放鳥計画について
 - ・出雲市での取組について

- ・令和8年3月頃 放鳥個体の順化訓練開始
- ・令和8年6月頃 羽咋市南潟での放鳥

4. トキの目撃情報収集について

- ・次回のトキと共生する里地づくりネットワーク協議会の開催は、おそらく本州での初放鳥後。
- ・本州においてトキがどのように分布・拡散していくかは不明(トキのみぞ知る)。
- ・GPS機器により取組地域の付近に飛来が推察される場合は情報提供をさせていただく。飛来が確認された場合は、トキの目撃情報収集にもご協力願いたい。
- ・現在、トキのみかた「いしかわ版」を作成中



トキのみかた いしかわ版(作成中)